

ますから、チヨイスリーダー三、菊池著の平面幾何學一冊借用致したう御座いますが如何で御座いませうか、若し御明きでしたらこの使に御貸しわたし下さいまし、御頼み申します。

○新聞紙配達を依頼する文（ハガキ）

前略明日より貴社発行の日本新聞壹葉宛表記の所に配達被下度御依頼申上候也

○新聞社へ取消を申込む文

一書拜呈仕候然れば貴社発行の何新聞何號三面記事中に何々と題し掲載

有之候事項は事實無根につき此の全文を掲げ御取消相成度候也

○投稿を依頼する文

日々鬱陶しき天氣に御座候處先生には益御機嫌克く御座被遊候や伺上候
投弊館此度實業の新日本と題する雜誌發刊致す事に取極め申候就いては
先生に論説の部か記事の部かの御擔當を煩し時々御投稿相願度別紙發行
の主旨並びに規則御一覽に供し候何卒御承諾下されて該雜誌の光彩を御
添へ被下度奉願上候頓首

◎通知門

此部門は凡べて人に物事を通知する文牒を蒐集するのである。例へば開業を報知する文とか、轉居報知の文とか、乃至は着郷報知、出産通知、商況報知、荷物發送報知、出産報知、病氣危篤報知、送金報知、着荷報知等の類である。されば其の文の構成法に就いても格別難しい事はない。たゞ報知すべき要項を遺憾なく認めたらば宜しい。至急を要する場合には拜啓先日は云々とか、益々御壯健なごいふ前置きの文句は省略して、前略若しくは文略などの冒頭を置き、直様、本文を書き出してよろしい。決し、てむつかしい文字を使ふ必要は入らぬ。

◎文例

○轉居を報ずる文

拜啓小生事昨何日表記の所に轉居仕候間御通知申上候御上京の節は何卒御立寄の程奉希上候

○全口語文

私事今般都合上表記の所に轉居致しましたから御知らせ申上げます御出京になられましたら御寄り下さいまし

○着郷報知の文

出發の際は種々御厚情に預りまして有り難う御座いました御蔭で海陸共無事に昨日午後何時着郷致しましたから御安神下さいますやうに願ひます、尚御同宿の諸君へは君より宜しく御傳言下さいます

◎照會門

此の門には人に物事を問ひ合はす題を集むべきである、即ち宿所を照會する文、送品の着否を照會する文、物價問合せの文、逃亡人を問合す文、發足期日を照會する文等の類である。されば一二の文例を納得すれば其他は大同小異で模型的の文丈の事誰にでも作り得るのである、只夫れ冒頭の趣向を換へ結尾を轉ずるが如きは作者の手腕であるから其處は如何様に工夫するも差支へはない今左に此等一二の文例を示さう

◎文例

○住所を問合す文

拜啓益御清適奉慶賀候然れば一別以來某君より絶て信書無之、近頃の消息如何に御座候や御伺ひ申度候へども宿所なとも判不仕候へば若し同君の宿所御存知に候は、御一報被下度此段御たのみ申上候早々

○出發期日を照會する文

貴君には兼ねて御企での御渡米愈近々の内に御實行成さる相ですが發足期日は幾日頃の御豫定で御座いますか多年兄弟のやうに願つてをりました私はたとひ當分の間にせよ御別れいたすに堪へませぬせめてもの御な

ごりに新橋迄御見送り申したいと思ひますどうか其の日時御知らせ下さいまし御たのみ申し上げます

○同返事

此といふ事とはなしに兎角忙殺せられ、御宅へも未だ御伺ひいたさず居りました何共申譯はありませぬ。出發は來三日午后二時横濱出帆の博愛丸にのりこひ積りですが、御見送りの儀は御見合せ下さいまし。略準備も揃ひましたから明日は御暇乞に参上いたします。

◎電信文を認める注意

電信で報知するとか照會するとかいふ場合は、何れも至急を要する場合であるから簡單でよく意味の通するやうに書かなくてはならぬ。ことに、音信に制限があつて一字でも制限外に出る時は料金を増されなければならぬから其の心得で書くべきである。そこで二音信即ち二十字かゝるべき所を一音信即ち十五字で間に合はせやうとするから、随分、電信の文では首をひねつて考へねば分らぬやうな事が澤山ある。それは畢竟、電文の認め方が拙なのである。電信文を認めるには假名遣等は不必要なのである。それは電報送受取扱上快速を缺く恐れがあるからである。例へば東京京橋區と書く時分に(トウキヤウキヤウバシク)と書けば假名遣には適つて居るが字數が多い即ち(トウ

ケイケウバシク)と書けば此文の中で二字少なく、取扱上二字丈速く行くといふ理である。町といふ字でもちやうが正當な假名であるが(てう)若しくは(と)と書く方が電信文には善いのである。斯様なわけであるから、一般公衆がこの點を心得て電報を頼んだならば如何許り交通機關が快速に行くか知れぬと思ふ。左に二三の例を擧げて其の一斑を示さうと思ふ。なほ注意すべきことは電報を掛ける人即ち發信人の居所氏名を受信人に知らせやうとするには受信人宿所氏名の欄内に書くか。又は本文の末尾に記すのである。どちらにしても、これは料金を要するので矢張本文の字數と合せて十五字迄二十錢。餘は五字以内を増す毎に五錢づゝを増し、字數に相當せる料金を郵

便切手で其の貼附欄(即ち頼信紙右頭部に貼附して差出すべきである。發信人の居所氏名は受信人に知らせるにしても、知らせないにしても、判明に、頼信紙左傍の發信人居所氏名記入欄に認めなくてはならぬ。此の他、澤山注意すべき點はあるが、それは本書の目的でない。只一通りをいふただけである。

◎文 例

○發會を祝する電文

ハツカイヲシユクス

○開會時刻を報ずる電文

一ジヒラクスグコイ

○病氣危篤を報ずる電文

ハナキトクスグコイ

○米相場を問合する電文

コメナリユキイカン

○着京を報ずる電文

ブジニツイタイサイフミ

○開店を祝ふ電文

カイテンヲシユクス

○當選を祝する電文

書翰文作法

トウセンヲシユクス

○出發時刻を照會する電文

ナンシタツカスグヘン

○爲替振出を報ずる電文

五〇ギンカウカハセオクタ

○醫師の來珍を乞ふ電文

タロウキドクライシントム

實書翰文作法 終

明治三十九年七月四日印刷
明治三十九年七月十六日發行

定價金四拾錢

著者

北川博愛

發行者

島田和三郎

印刷者

深見豐次郎

印刷所

共正舎印刷所



東京神田西小川町二丁目一番地

發行所

東京市神田區鎌倉河岸拾六號地

文盛館

實業家の必讀書

好評嘖々訂正參版發行

本書の内容
 時事新報批評
 大阪朝日新聞批評
 銀行會社社員其他商業子弟諸君の良師友なり

最新商業寶典

前文部大臣 東京市長 尾崎行雄君序文
 前東京高等商業學校校長 寺田勇吉君序文
 帝國大學教授法學博士 和田垣謙三君校閱
 若山操 松田喜三郎兩先生共著

發行所へ直接注文に
 限り小包料を要せず

全國の銀行會社社員其他商業子弟諸君の良師友なり
 全人として必要なる商業と實務とを言文一致を以て秩序的に詳述したれば

東京市神田區文盛館發行所

書籍取次販賣

▲本館は各地讀者諸君の御便宜を計り
 東京市中各書籍店にて發行圖書は定
 價より五分引にて御注文に應ず
 ▲御注文の節は必ず發行所及び著者名
 を明記相成度候
 ▲御注文の節は一切前金の事
 ▲郵券代用の御送金は一割増の事

東京神田 鎌倉河岸 文盛館

◎授教信通習獨宅自◎

通普 商業學講義

本講義は、新なる通信教授の方法により、文部省所定の甲種商業科とを通俗平易に講義し、一は各種商業學校の入学試験を受けんとする者の爲めに好参考書となり、一は山間僻遠の地に在りて商業上に必要なる學科を學ばんとするも良師なく、又は自身商業に従事するも商業補習學校の如き設備なくして他日實業界に活動する資料を得るに途なく、空しく壯志を懐きて業務に従事する者の爲に専ら懇切に筆を執り解し易くして、要領を得ること、に努めたり、故に小學校卒業程度の學力を有する商家子弟諸君は、業務を執るの傍ら、僅なる時間を利用して修業するを得

▲詳細規則無代進呈
▲目下入會の好時機
▲講習期は九ヶ月間
▲講義録は

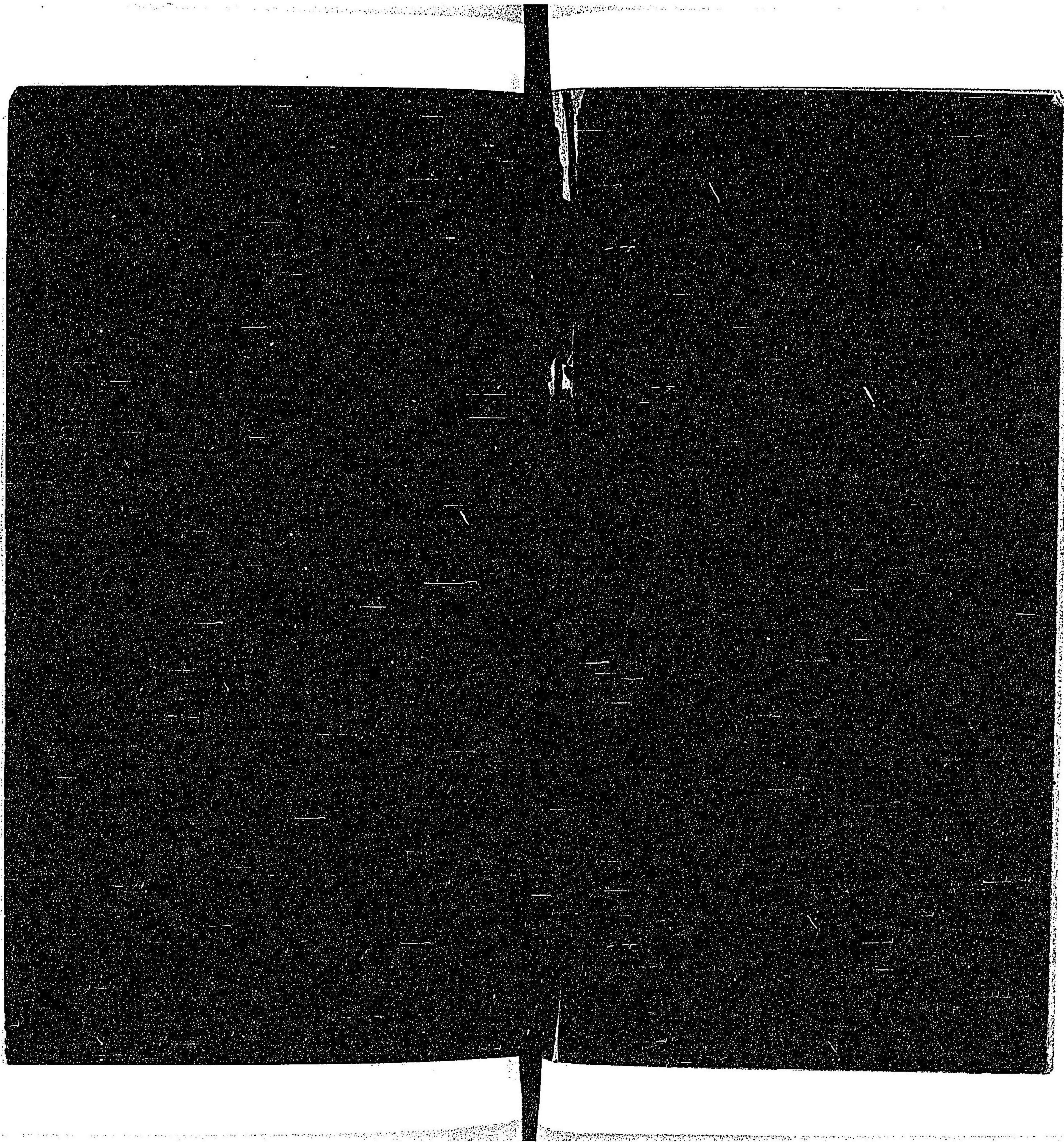
講習科目
商業文習字帖
東洋商業地理
法學通論
商業簿記
商業要項
商業算術
日本商業歴史
商業簿記
商業實踐
商業英語

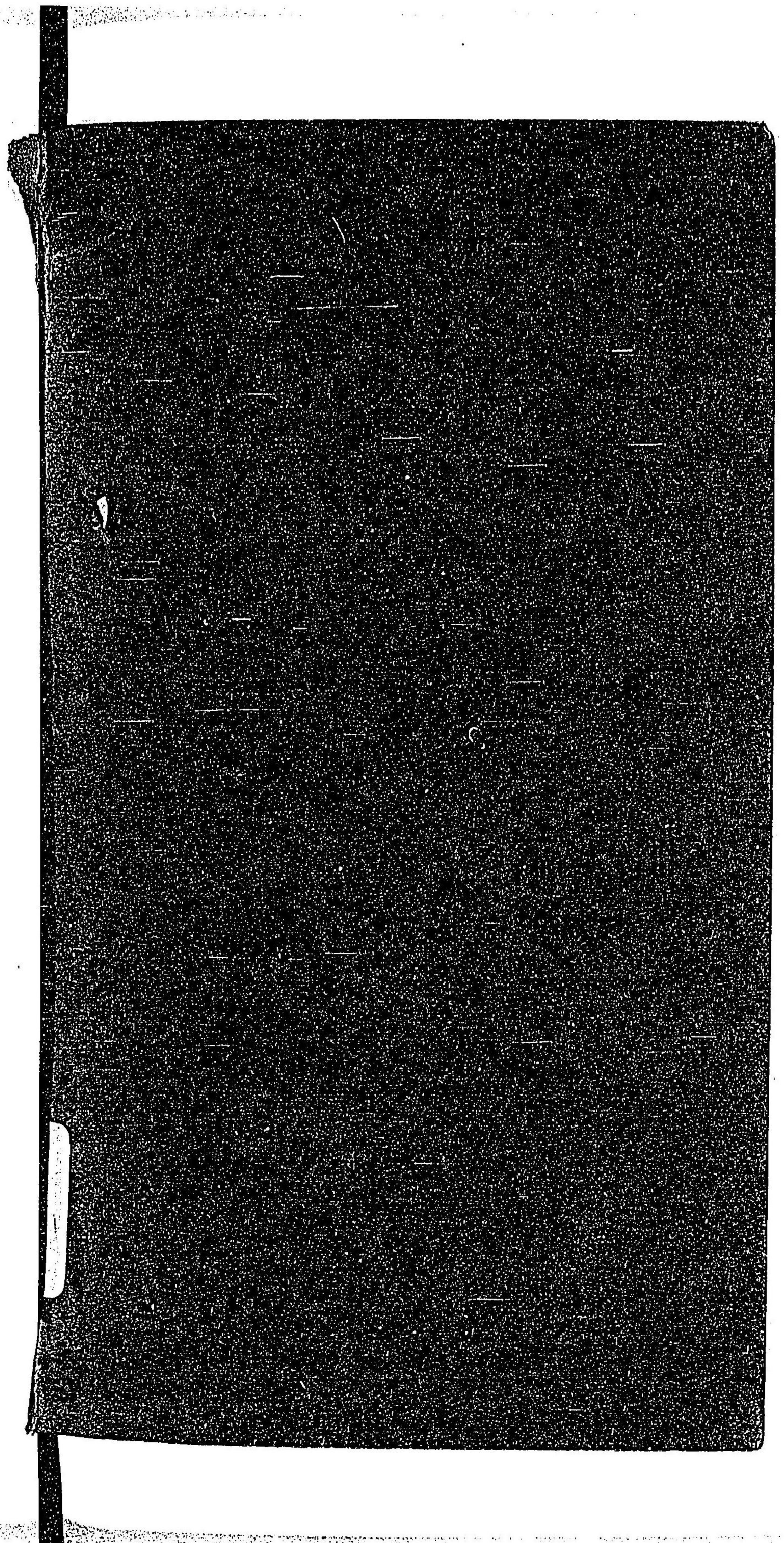
二冊金六拾錢
九拾五錢
四拾錢
九錢
五錢

六冊金壹圓
六冊金貳圓拾
九冊金貳圓拾
八冊金四圓拾
外に入會金廿錢

▲講習期は九ヶ月間
▲講義録は毎月五日廿二回發行

●岸河官鐵品田神市京東●
會學業商通普本日大





080069-000-0

特19-747

实用书翰文作法

北川 博愛 / 著

M39

DAC-4201

